

社会福祉法人アイアイハウス 2020年度事業計画

はじめに

2020年度は、社会福祉法人制度改革から3年目となります。この間は「我がこと・丸ごとー地域共生社会の実現」とも連動した法人制度改革の中で、社会福祉法人の「地域貢献」も求められる中でその対応に追われて来ました。また、2021年度の報酬改定に向けての準備の一年となります。と同時に、「全世代型社会保障制度」に向けての始まりの1年でもあります。いずれも、膨れ上がる「年金」「医療」「介護」などの社会保障全般の費用を抑えることが目的とされ、アイアイハウスの法人理念にも掲げられた、障害のある仲間ひとりひとりが人生の主人公として輝ける社会とは大きくかけ離れているとしか思えません。

しかしこの間、障害福祉分野では2014年の障害者権利条約の批准に始まり、差別解消法の施行など、障害のある人たちの権利の保障をめざす動きも確実に進みつつあります。とりわけ介護保険優先原則訴訟の完全勝利判決もその大きな現れの一つと言えます。しかしながら、2016年に起こった津久井やまゆり園事件にも見られる「優生思想」の考え方がまだまだ社会の中に潜んでいます。「生産性」や「成果主義」、「自己責任」などの言葉で、障害のある人たちを社会のお荷物としてしまう「優生思想」的な考え方が社会に広がる危険もあります。

今改めて、アイアイハウス30年の歴史に学びながら、社会福祉法人アイアイハウスの法人理念と基本方針（めざすこと）に立ち返り、仲間たちや家族の置かれた現実から出発し、願いと思いを実現する法人運営と実践の充実発展に全力で取り組まなくてはなりません。

2020年3月現在では、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、日本においても様々な分野で国民生活に支障が出ています。マスクやアルコール消毒液などの不足により、アイアイハウスでも仲間や職員の衛生管理にも支障が出始めています。また、公共施設の閉鎖や集会・研修の中止、不要不急の外出を控える要請などで仲間たちのアイアイハウスでの日常の取り組みにも少なからずの影響が出ています。2020年度は、この間取り組んできて仲間たちの行事取り組みや日々の諸活動にも変更が求められることもあると考えられます。世界的なパンデミックと日本での感染拡大の収束時期が見通せない中、以下の重点課題を大切にしながらも、仲間たちの安全を第一に考えながらの日々の取り組みが求められます。

2020年度重点課題

① 仲間たちの日中活動のさらなる充実をめざします

<現況>

紫竹アイアイハウスが開設して3年が経ちました。アイアイハウス全体で仲間の登録は41名となっています。またこの間は、仲間たちの生活リズムの確立や見通しも視野に入れ、通所日数の増をめざして、祝日開所や土曜開所にも取り組んで来ています。日中活動については、制度で決められている上限である1ヶ月23日の通所をめざしての検討が求められます。アイアイハウスの仲間たちの障害種別や障害の程度、年齢層も幅広くなる中で、あわせて家族の介護度が低下していく中で今後ますます仲間たちひとり一人の実態や願いに基づいて各事業の果たす役割をより明確にする事が求められます。

<重点課題>

仲間たちの実態に合わせて、アイアイハウスでは引き続き祝日の開所と土曜の開所をそれぞれアイアイハウスと紫竹アイアイハウスで継続して取り組みます。また、仲間たちの働くことをはじめとした日中活動の充実はもとより、働くこと以外の諸活動（機能訓練やストレッチなど）や行事（創作

活動やリフレッシュ、外出や旅行、自治会活動など)もいっそう充実させていきます。あわせて、仲間の高齢化や障害の重度化に伴い、往診等も含めた医療的ケアや健康の維持、身体づくりなどにも積極的に取り組んでいきます。

② アイアイホーム等のくらしの場の充実と家庭での暮らしの支援を進めます

<現況>

アイアイホームでは、祝日開所に伴うホームの祝日宿泊利用と週末である金曜日までの宿泊も実施して来ています。また、家族の高齢化等による家庭での介護力の低下に伴い、土曜や日曜、長期休暇中のホーム利用についても実施を始めました。残念ながらご両親ともが家庭で仲間の介護ができない事例もあり、残念ながら入所施設を利用せざるを得ないケースや、長期の入院生活を余儀なくされたケースもありました。

<重点課題>

仲間の高齢に伴い必要になる医療的ケアに係る支援や、土日や長期休暇中のホーム利用も視野に入れた支援の体制作りなどにも取り組み、より一層アイアイホームでの暮らしを質と量の双方ともに充実させることが望まれています。あわせて、家族の高齢化や介護力の低下も進むなか、アイアイホームや紫竹アイアイハウスのショートステイ事業もより活用の頻度を増やし、充実して利用できるように努めます。また、アイアイハウスに通う仲間たちの将来の暮らしを見据えて、職員と家族がともに考えていく場を作ります。

③ 仲間の生活や余暇を支える手だてを充実させます

<現況>

指定特定相談事業所を中心として、仲間たちの日中や夜間の支援だけでなく、ライフサイクルに沿った仲間一人一人の暮らし全体を考慮することや、余暇の充実等をめざしてそれぞれの課題の解決に向けて法人として取り組みを進めてきました。

<重点課題>

そのためにも、ヘルパーステーションアイアイの質・量ともに拡充をはかるり、仲間たちのニーズに応じた居宅介護の利用を促進します。とりわけ希望の多い移動支援の事業の開始を進めます。障害者地域生活支援センターや保健センター等の他機関、他の事業所とも連携し、仲間たちの余暇を豊かに支える取り組みとともに生活の課題の改善に向けた取り組みにも力を注ぎます。

④ 「法人理念」と「法人の基本方針(めざすこと)」に基づく実践と運営を進めます

社会福祉法人アイアイハウスの「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を通じて、日々の取り組みの中で職員をはじめとしたアイアイハウス関係者の団結と意思統一をより進めます。そのためにも「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を実現できる実践力の向上と経営の確立と安定を図るために、就業規則をはじめとした諸規定の更なる整備と充実に着手します。

⑤ 法人と職員集団の役割を明確化するとともに、法人の組織機構をしっかりと確立します

2020年度重点課題が実現できるよう、地域も分かれ、事業種別も異なる各事業が有機的に連携し機能するよう、強固な組織機構体制を確立します。そのためにも2020年度はかつてなかった事業所間の人事異動・人事交流を行います。その中で、個々の職員が自分の所属する事業所だけでなく、幅広い視野を持てるようにします。また職員の職責や役割分担、業務分掌を明確にするとともに、職員会議の充実と研修の充実を図ります。キャリアパス制度を充実し、現場の責任者である主任を個々の事業所にも配置する中で、個々の責任所在を明確にし、職員のやりがいとともに働きがいの充実を目指します。また、法人とアイアイハウス家族の会やアイアイハウスを支える会との連携

をより一層強化します。

- ⑥ 仲間の置かれた実態や要求に基づく制度改善に向けた運動に積極的に取り組むとともに、地域での理解と支援を広げます

国において、財政抑制に発して権利としての社会保障制度が後退していく中、仲間たちの願いに応えるべく、制度改善の運動に積極的に取り組みます。また、そのためにも各障害者団体や障害者施設、他種の社会福祉事業や社会福祉協議会等とも連携を深め、人的な交流も含めて積極的に連帯します。同時に、地域の住民や地域の各種民間団体とも連携を深め、まつり等の機会を通じてアイアイハウスに対する理解と共感を広げる取り組みを進めます。

- ⑦ 間たちの願いに基づく中長期計画を策定します

社会福祉法人アイアイハウスとして、3年から5年後を見据えた中長期計画に基づいて事業を進めます。そのために法人役員だけでなく、仲間家族や職員、幅広い関係者が参画しての検証委員会を設け計画の推進に努めます。

3. 各事業について

「アイアイハウス」(生活介護事業)

■今年度方針

アイアイハウスは2020年度も『仲間と一緒に明るく楽しく元気よく！』をモットーに、仲間一人ひとりがその人らしく、日々の活動を通じていきいきと過ごせるよう支援していきます。

- (1) 仲間一人ひとりが楽しく過ごせるような環境作りに努めます。

仲間一人ひとりが過ごしやすい環境整備を必要に応じて行い、それぞれの仲間に合わせた取り組みを行います。

- (2) 仲間一人ひとりが楽しく取り組める活動を保障します。

年令や障害の違いのある、仲間ひとり一人に合わせた作業や活動に取り組みます。その上で、仲間がそれぞれの力を発揮できる取り組みを大切にします。

- (3) 仲間、家族、職員誰もが安心できる「アイアイハウス」をめざします。

送迎時や連絡ノートなどで、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、仲間とご家族の思いや願いをしっかりと捉えて大切にしていきます。また、定期的な個別の面談や、必要に応じてのケースカンファレンス等を開催します。

また、仲間みなさんの活動をよりわかりやすくご家族の方々へお伝えできるよう、作業所からの便り『上京新聞』を継続して発行していきます。

■事業内容

アイアイハウスでは、仲間一人ひとりに合わせた取り組みを充実させていきます。日々の活動を通じて仲間一人ひとりがいきいきと取り組むことができ、日々『楽しい』と実感できる事業をめざします。

- ① 仕事の充実

「米販売」を継続して全体で取り組みます。地域の方々に注文書をお渡りする【注文とり】【精米】

【計量】【米袋のステッカー貼り】【配達】を仲間みんなで分担していきます。

② 取り組み(仲間の会・外出機会)の充実

全体

<ことばと音楽>

週に1回、仲間一人ひとりの好きなうた(音楽)を中心に、季節に合わせた音楽と紙芝居や絵本などの『ことば』を大切に取り組みます。月に1回は、1階グループ・2階グループの合同で取り組みを行うことでより充実した楽しい取り組みにしていきます。

<身体を使った運動の取り組み>

心身ともに健康な身体づくりをめざし、『京都市障害者スポーツセンター』等を利用するなど運動ができる機会を大切にしていきます。

<仲間の会>

仲間の「●●したい!」という思いや意見を大切にし、充実した企画にしていくためにも、「仲間の会」の年間計画を作成していきます。季節の行事やゲーム大会など、1階グループと2階グループの合同で取り組む機会も大切にしていきます。

<創作活動>

季節を感じる壁画を中心に制作していきます。また、絵画にとどまらず、様々なものを制作できるような取り組みにできるように、仲間一人ひとりの好きな活動内容も活かしながら取り組みます。

<外出企画・日帰り旅行>

地域のお店での買い物や散歩など、外出する機会を増やしていきます。また年に1回は少し遠くに出かける『日帰り旅行』を実施し、仲間みんなで楽しめる企画、思い出に残る企画に取り組みます。

1階グループ

『ガンバルゾ☆グループ』『さんSUNグループ』の二つのグループに分かれて活動していきます。日々の取り組みはグループごと、または個別対応となっていますが、仲間の会や行事等は全員で取り組めるよう工夫をしています。

下請けの仕事とリサイクル活動など生活活動としては、室内清掃や買い物に取り組みます。

2階グループ

スヌーズレン

リラクゼーションを目的とした取り組みで、「音」や「光」を使って仲間が心地よく過ごせる時間となっています。自然と心も体もリラックスできる空間の中で、より心地よい環境づくりを追求していきます。そして、仲間一人ひとりにとっての癒しの時間となり、次への活力となるような取り組みにしていきます。

② 月に1回、避難訓練を実施します。

様々な想定での避難訓練を行います。月に1回実施することで、全職員が緊急時にスムーズな対応ができるようにしていきます。

③ 情報の共有

仲間のみなさんの様子を日々職員間でしっかりと情報共有していきます。その為にも、終礼での報告を徹底し、特に『事故報告』『ヒヤリハット』はもちろんのこと、よかった取り組みやステキな出来事を共有してけるよう『ニヤリホト』の報告も大切にしていきます。『事故報告』『ヒヤリハット』についてはその都度、集団で対策を話し合うことで、情報を共有しながら改善が必要なことをすぐに対応していけるようにします。また、仲間に対する支援についても職員会議等で内容が深められ、話し合える機会を大切にしていきます。

⑤年間予定(案)

4月	花見/植物園	10月	日帰り旅行
5月	法人30周年のつどい	11月	フナオカスタンダード(まつり)
6月	合同仲間の会	12月	クリスマス会
7月	プール	1月	初詣(今宮神社)
8月	プール	2月	合同仲間の会
9月	アイアイうんどう会	3月	外出企画

「紫竹アイアイハウス」(生活介護事業)

① 契約通りの通所と送迎を提供します

2020年度も月1回の土曜開所日を継続して取り組みます。将来の開所日の増加に向けて、日々の取り組みの延長であるプログラムに取り組むとともに、季節を感じる行事やお出かけ、調理実習などにも取り組みます。また、外部からのゲストも迎えて、音楽やダンスなど、日頃あまり取り組まない体験も行います。

② 取り組み内容を充実させます

2020年度は、活動内容をより充実させ、仲間のみなさんが実力を発揮できる取り組み、達成感が得られる活動に取り組めます。自主製品(フェルト製品・紙製品・染め物製品)の製作には、年間予定表を組み、目標を持って取り組みます。創作活動やレクレーション活動などは、季節感を大切に、同じく年間予定表を組み、取り組んで楽しい企画を立てます。他にも、園芸作業、リサイクル作業、ストレッチ、買い物などで、仲間個々の目的や目標に応じて取り組める時間を作ります。また、様々な機会を通して地域とのつながりを大切に活動します。

③ 医療面でのケアを充実させます

常勤職員の看護師の配置はもちろんのこと、昨年見直した近隣の提携医療機関とより密接に連携して医療面でのケアを充実させます。仲間の急変時の対応はもちろんのこと、計画的な通院についても事業所として可能な範囲で積極的に取り組みます。

④ 新しい仲間を受け入れます

できれば年度内にも新しい仲間を1名受け入れます。開設して4年目になりますが、施設の広さやバリアフリー度からも引き続き新しい仲間の受け入れを検討していきます。合わせて、仲間の障害特性(常時の車椅子利用や発達障害など)にも着目して、基礎集団の再編や新たな作業・取り組みグループも検討します。

【ショートステイ紫竹アイアイ】

① 契約者の定期利用を可能な範囲で拡充します

2020年度はアイアイホームの「ショートステイアイアイ」とともに「紫竹アイアイハウス」も、ショートステイを希望するすべての仲間とも契約を行い、2カ所のショートステイでより効率よく実施ができるように再検討します。仲間の障害特性や職員体制、施設設備等も勘案して、場所も選べるようにしていきます。いずれにせよ職員体制の確保と充実が求められる中で、法人としての検討チームを立ち上げて体制確保に努めます

「アイアイホーム」「ショートステイアイアイ」

<現況>

昨年度も祝日開所に伴うホーム利用と金曜宿泊も実施しました。また、家族の介護力の低下に伴い、土日の利用や長期休暇中のホーム利用も実施をしてきました。しかしながら、医療的ケアの必要性が高まる中で、ホームとしての対応がしきれない中での退所や、両親の施設入所や入院に伴い、365日・24時間の対応がしきれずに、残念ながらも入所施設に移行される仲間のケースもありました。

今後は医療的ケアに係る支援や土日のホーム利用に向けた体制作りなども視野に入れた取り組みが求められます。あわせて、家族の高齢化や家庭での介護力の低下がさらに進むなか、「ショートステイアイアイ」も「ショートステイ紫竹アイアイ」とともに、より活用の頻度を増やしていく必要があります。法人全体としても、アイアイハウスに通う仲間たちの将来の暮らしを見据えた取り組みをの前進が求められます。。

<方針>

① 仲間が安心して暮らせる環境作りと支援体制の安定を進めます

夜間支援職員4人体制の継続は必要ではあるが、日勤のシフトも含めた支援体制シフトの見直しや効率化、再評価を行います。その中で暮らしを支える取り組みの充実、仲間たちの暮らしの質の向上をめざします。そのためにも働く職員の労働環境改善にも着手します。合わせて、ホームでの仲間のヘルパー利用を進めるなかで、職員の働き方の効率化とともに、暮らしを支える事業の経営の安定化を目指します。

② 町内会や地域の医療機関、他法人事業所とも連携し地域に根ざした取り組みを進めます。

町内会などの行事参加など、地域の皆さんとのつながりを広げます。また、仲間の通院支援等の実施や往診医や訪問看護の利用など、医療的なケア支援の取り組みをめざします。

③ 職員のスキルアップに努めます

研修の参加や他のグループホームとの交流などで職員のスキルアップに努めます。

④ 特例でホームヘルプを利用している他のグループホームとの連携を深めます
仲間の重度化・高齢化の支援にも取り組んでいる他のグループホームと実態や課題の共有を
する中で、情報共有をして制度改善の要求活動に努めます。

「相談支援センターアイアイ」（指定特定相談支援事業）

<現況>

昨年度も常勤職員1名体制で指定特定相談支援事業に取り組んできました。30名を超える仲間の利用計画作成や日常生活相談を行ってきました。

仲間や仲間の生活を支えているご家族の加齢や急病により、支給内容の大幅な変更が必要になるケースが増えてきています。現在の制度を知悉し、「必要な時に必要な支援を受けられる環境を作る」ことが相談支援に求められる役割であると感じています。

<方針>

① 必要な時に必要な支援を受けられる環境づくりを目指します

普段から、仲間や介護の中心であるご家族の状態を、保健センターのケースワーカーや支援事業所とも共有し、急な変化にも対応できる環境を作っていきます。支援計画作成の際には仲間とご家族に、積極的にたくさんの事業所を利用して一緒に「支援の輪」を作っていくことを提案していきます。

② 余暇の充実や将来に向けての経験をつんでもらえるよう、他法人・事業所との関係作りに努めます

移動支援やショートステイなどのサービスを利用したいけど、空きがなく利用できないという現状を何度となく経験しました。日々の業務に併せて、新規事業所情報や、各事業所の特色、サービス利用状況(空き)の把握など、各事業所との連絡、情報共有できる関係作りを行っていきます。

③ 研修受講など職員のスキルアップに努めます。

様々な研修に参加し、制度の理解を深めてスキルアップにつとめます。

「ヘルパーステーションアイアイ」（居宅介護事業）

アイアイハウスでは、グループホームを利用している仲間はもちろんのこと、生活介護のみを利用している仲間も、夜間や余暇での生活支援の課題が増大してきています。アイアイホームでのヘルパー利用を充実させるとともに、アイアイハウスの仲間の実態や願いにさらに応えていくためにも常勤・登録ヘルパーともに増員する中で、暮らしの支援を充実させ、居宅介護事業の経営の安定化にも努めます。またも仲間の希望の多い移動支援の事業の開始をします。